

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-4	利用者の意向を尊重しつつ、個別状況に応じて家族等と協力して利用者の支援を行っている
タイトル①	事業所と家族が「サービス提供記録」を毎日取り交わし、支援の連携につながっている	
内容①	事業所では、利用者の施設での様子を「サービス提供記録」に記録し、利用者を介して全家族と取り交わしている。「サービス提供記録」の職員記入欄は、毎日退所時に利用者へ手渡すできるように、活動内容、登所降所の時間、支援状況や特記事項などを簡潔に記述できる様式で、その日の活動が網羅的に記述されている。「サービス提供記録」の家庭欄には、家庭での利用者の様子を記入してもらうことで連絡帳としての機能も果たしており、相互に利用者への理解を深めるとともに、職員と家族の連携した支援と信頼関係の構築にもつながっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-2	利用者が主体性を持って、充実した時間を過ごせる場になるような取り組みを行っている
タイトル②	作業面以外でも充実した楽しい時間を過ごし、「通いたくなる作業所」を目指している	
内容②	事業所は、支援の姿勢として「その人らしい労働の場、生きる場を提供し、ジェントルティーチング(温かく援助する)の理念を基本として、通いたくなる作業所」であることをあげている。作業以外では、グループ外出、クラブ活動、タウンミーティングなどで希望者が一定の役割を担い、その人らしさを発揮している。特に毎週1回行う4種のクラブ活動(音楽、創作、スポーツ、シネマ)は利用者の通所の楽しみとなっており、仲間と一緒にいる素晴らしさも体感している。事業所では利用者一人ひとりの関心を引き出し、生活の充実を図っている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-3-1	定められた手順に従ってアセスメントを行い、利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している
タイトル③	登所・活動参加・作業の状況を的確にアセスメントして、少し先の目標を導いている	
内容③	事業所では、年1回、個別支援計画作成前にアセスメントを実施しており、必要に応じて半年後のモニタリング時にも行っている。作業面のアセスメントは、登所・行事参加状況、作業中の報・連・相や片付けなどの状況、作業所のルールや支援方法などを考慮しており、半年に1回の作業評定の基礎資料ともなっている。アセスメントの結果、明確になった重点的支援項目から取り組むべき課題は、利用者の意向と家族の同意を反映して、個別支援計画の課題(作業・生活・就労)となり、作業ではどの工程をするか明記して目標の到達を確認している。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	事業所は、利用者が施設内で安全に過ごすための工夫や事故防止に努めるとともに、災害対策を講じて、利用者の安全管理に取り組んでいる
	内容	事業所では、利用者の体力、相性や障害特性を考慮し一人ひとりが快適に作業できる環境づくり、職員の経験が積み重ねられた作業マニュアル、利用者の作業確認のための個別のイラストや写真の使用など、利用者が安全に過ごすための工夫をしている。また、職員は法人内研修でSHEL分析のスキルを習得しており、気づきメモやインシデントレポートの分析を行い、職員間で情報共有して予防策を講じている。災害対策では、水害時避難行動計画書や事業継続計画(BCP)を策定し、避難や支援における重要業務を定め、利用者の安全を守る態勢を整えている。
2	タイトル	事業所の情報開示や日中活動を通じた社会貢献、生活困窮者支援などは福祉法人としての社会的責任と捉え、積極的に実施している
	内容	事業所は、地域への広報誌の配布やホームページで年度決算、第三者評価結果と改善計画などの情報を開示することは、福祉事業を行う施設として社会的責任の一環と考えている。また、施設祭や地域の母子を対象とした「こども工作教室」などの施設公開、公園清掃や地域の高齢者施設の車いす清掃事業など日中活動を通じた社会貢献にも力を注いでいる。また、生活困窮者支援の一環として、ボランティアとして受け入れ、就労喚起の支援につなげたり、「触法障害者」をテーマとした講演会の実施など啓発活動にも力を注いでいる。
3	タイトル	利用者一人ひとりが主体的に各種会議に参加し、役割を担いながら、その人らしさを発揮した活動ができるよう支援している
	内容	事業所の運営方針の一つである「利用者一人ひとりがその人らしく自己を発揮できることへの支援」の取り組みとして、自治会、利用者代表会議、タウンミーティングなど、利用者主体の各種会議を設けて、利用者の日常生活や行事に対する要望を話し合い施設長に伝えたり、自分たちの意向を反映した決定ができるよう支援している。また、選挙で選ばれた自治会役員がタウンミーティングでの司会を務めたり、広報誌ゆりかもめの「みんなのページ」の企画でインタビュアーをするなど、利用者が主体的に参画し、役割を担うことができる場面を大切にしている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	利用者の高齢化・重度化に備え、施設運営の安定や利用者・家族を支える方策の充実とともに、家族を含めた生活支援の期待が高まっている
	内容	利用者平均年齢は39.7歳で、40歳台20名、50歳以上7名と40歳以上が半数強を占め、平均障害支援区分も3を超えている。事業所は、利用者の高齢化・重度化に備え、安全な作業環境の整備、地域関係機関と連携して送迎や日中活動の利用促進を検討したり、法人内外入所施設の見学など、施設運営の安定と利用者・家族を支える方策を実践してきたが、さらなる取り組みの強化が期待される。また、家族の高齢化や家庭環境の変化により、家族会の出席者が減少傾向にあり、相談支援事業との連携で家族を含めた生活支援の期待が高まっている。
2	タイトル	就労継続利用者の減少傾向や高い労働分配率など事業リスクに対応すべく、高齢・重度者サービスを想定した多機能型事業の検討が期待される
	内容	平成28年度の福祉事業収益は、わずかに収支差額が得られる値に留まった。今年度は、収入改善のために利用者がいない就労移行支援事業を廃止し、就労継続支援B型の利用定員を40名から46名とした。しかし、区の補助金削減が心配され、利用者の高齢化で稼働率が低下したり、区内に新設される入所施設への移行希望者もいる。一方、高い工賃を維持するためには手厚い職員数も必要で、労働分配率は90%と高い。障害程度区分が4以上の利用者が42%いる中で、高齢・重度者へのサービスを想定した多機能型事業の検討が期待される。
3	タイトル	事業所は、委託事業だけでなく自主製品の開発が念願で、かりんとう饅頭の開発・販売に成功したが、利用者の作業への参加を課題としている
	内容	平成28年度の工賃総額は1,433万円、月一人平均は25,000円と法人内の事業所では最も高い工賃となっている。その中で事業所は、自主製品かりんとう饅頭をコンサルタントの協力を得ながら開発を続け、冷凍庫やフライヤーなどの備品整備と試作を繰り返しながら29年9月に販売を開始した。地域の祭りやイベントなどの販売は好評を得ているものの、製造工程の中で高熱処理等があり、安全面から作業は職員が中心となって生産している。今後は、利用者が関わられる作業を増やしていくことで、利用者のやる気の向上につながることを期待したい。